



発行・カトリック水巻教会
 編集・広報委員会
 遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3
 〒807-0021
 TEL 093(201)0680 FAX(201)7354
 第279号

信仰の山、富士山

日本で一番高い山は富士山です。誰でも一度は登ってみたい山とも言われます。

7月1日の山開きからお盆休みまで、沢山の人が登ります。週末の夜は、夜明けに頂上に着くために登る人のヘッドランプの光が登山口から頂上まで光の帯になります。

平日の登山者が少ない日程を選んで、二年ぶりに登山しました。今回は広島教区の司祭や、山の会の会員たち5人を連れての登山でした。

激しい雨の中を、三時間掛けて八合目小屋まで登り、翌朝に頂上に行くことになりました。夜明けごろには3000m以上は雲が切れて絶好の登山日和になりました。無事に登頂した後、登山口まで下山すると登山口は雨でした。

今回の登山で驚いたのは、外国人の登山者がとても多かったことです。初めて登った20年前には数人しか見なかったのですが、帰りのバスも半数が外国人でした。

私たちのパーティーも6人のうち二人が外国籍でした。

富士山は昔から信仰の対象でした。富士宮市には浅間(せんげん)大社の本宮があります。そして八合目から上は神社の範囲にあることが書いてあり、頂上には神社があります。昔から富士講という信仰形態があ

ります。上下が白装束の信者の団体が登っているのを見たことがあります。

そして登山した人たちは夜明けの太陽(ご来光)に向かって手を合わせます。

登山しなくても山に向かって手を合わせる人もいます。

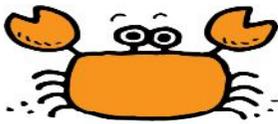
30年以上前に聖書の読み方を習ったとき、指導してくれた神父から文中にいくつかの注意する点があることを言われました。その一つが、「上る・下る」です。

エルサレムに上る。ガリラヤ湖に下る。などの記述があるときは注意して読むこと。そこにはメッセージが隠されているということでした。聖書の世界はほとんどが高低差のある不思議な地域です。

ガリラヤ湖は-200m、エルサレムは+800m、ご変容の山は+500m、ヨルダン川もほとんど海拔がマイナスです。

高いところを信仰の対象にすることは世界共通なのではないでしょうか。広報 岩本

子どもたちへのページ	2面
中高生練成会	3面
黙想の家・聖書を読む	4面
冠婚葬祭の会・平和の集い報告	5面
今モーセの十戒を読み直す	6面
公文書シリーズ(10)	7面
おしらせ・小グループ紹介	8面



中・高生及び青年～天草巡礼の旅～

柴田 香菜



「なあーんも無い所よ。」

竹森神父様のそんな言葉とは裏腹に楽しい錬成会でした。道中、若者パワーをもらいながら染野神父様も乗せて、一路天草へ。

車窓から見る有明海、向こうに見えるのが雲仙岳！！

橋の上から見た、海にぶかぶか島が浮かんでいる風景はどこかリゾート地みたいでした。風も日差しも強いけれど、展望台から見た海は体ごと向きを変えないと左右の視界に入りきれないほど広く、とてもきれいでした。

目的の大江教会へ向かう途中、竹森神父様のいところが飼っているヤギを車窓見学しました。草を食べているのか、急斜面にしがみついているのか分からない姿に爆笑。

山の斜面に見える大江教会は、これまたどこかリゾート地に建てられた結婚式場のようにすてきな教会でした。

また、教会から見える海や山の近さに驚きつつ、景色も堪能しました。

夕食のBBQでは新鮮なお刺身と料理に舌鼓をうち、花火も楽しみました。少し曇り空でしたが、普段見ている星の数や月の明るさの違いを比べて一日を過ごしました。

翌朝、大江教会まで歩いて行く途中、道端に生えている葉っぱの大きさに驚き、触ってみると、とても柔らかくおいしそうに見えて自然からパワーをもらいました。

教会巡礼の合間に、大江教会から見えていた海へ行きました。数年ぶりの海に喜び、ビールの泡のようにやってくる波に足を濡らしながら、暑さも忘れてリフレッシュしました。



山もあれば海もある、山と雲がこんなに近い景色を見るのは初めてです。地上の楽園とはこのようなものなののでしょうか。

染野神父様とさよならする時は、お互いに現実に戻ることに嘆いていました。

「巡礼」といえば外国の教会に行くイメージが強かったのですが、場所や距離は関係なく、心や魂がそこにあることなんだなと思いました。

「黙想の家で祈り語りあう集い」について

昨年秋、大人の日曜学校で、日本二十六聖人の無声映画にフランシスコ会修道士が音声を吹き込んだDVDを鑑賞しました。殉教にさきだって、聖人達が「わたしたちは、この国の信仰の礎（いしずえ）になろう」と励まし合った言葉が印象に残っています。

日本のカトリック教会、特に九州ではキリシタン時代から守りの姿勢が強く、ともしびは升の下に、地の塩は味を失ったかのようです。聖書講座や分かち合いへの参加もなかなか増えないといえます。

典礼委員会は、昨年5月にミサについての研修会を黙想の家で行いました。ミサは、わたしたち共同体が司祭とともにイエス・キリストをとおして、御父と交わる最高の祈りであるとの自覚を促されました。

今年の企画は、実現が難しそうな「開かれた教会」への試みです。信者のためだけでなく、身近な未信者、様々な理由で教会から足が遠ざかっている方々にも参加を呼びかける「集い」を開催することになりました。

黙想会や聖書講座とは違って、神父様に話題提供として30分ほど講話をして頂き、関連した質問が用意されます。各自が自分の生活を振り返り、休憩のあと意見交換をします。結論を出す必要はないのですが、来住神父様によれば、自分が人前で話したことは、心に残るという意味があるそうです。

「第1回、第2回の集い」内容は、「からしだね」8月号に掲載しました。第3回の集いは、10月10日(日)14時から15時の予定です。今回の指導司祭は黙想の家の染野治雄神父様です。案内状(うぐいす色の紙)を「からしだね」9月号にはさんでいます。どうぞお誘い合わせの上、ご参加下さい。

聖書への案内 No.13 歴代誌

祭司系の著者によって書かれた、イスラエル民族の歴史書で、上下二巻になっています。著者は紀元前250年ごろにエルサレムに住んだレビ人で、祭司系の史観に立って執筆したものです。

この時代にはマケドニアのアレクサンダー王の遠征などもあり、ヘレニズム文化が中東一帯を支配していて、ヘレニズム時代のユダヤ教の共同体を意識して書かれています。

列王記と比べると同じような内容に見えますが、歴代の王の取り上げ方が、列王記は北の王国を取り上げているのに比べて、歴代誌では南のユダ王国を中心に書かれています。

ユダ王国がバビロニアに捕囚されるまでの歴史書でもあり大切な書でもあります。

冠婚葬祭の会集会議事録

開催日時；7月27日ミサ後 出席人数17名

集会の目的は主に会計報告でしたが、本会は組織として、「結婚を支える会」と「安息を祈る会」が1本化されてから初めての集会であり、組織の在り方についても議論がありました。要点を記します。

◇会の名称は；「冠婚葬祭の会」とする。従がって「安息を祈る会」の名称はなくなる。

◇留保金の使途について；祭具の購入や「黙想の家」の集いなどに出費したが、これ等は年度初めに、予算要求して教会予算に計上させるのが望ましい。

他に「死者の日」に、水巻教会所属の「司祭」及び「信徒の死者のため」のミサ依頼や森一幸神学生送別会費の一部負担、などがありました。

◇通夜・葬儀の際、遠距離から奉仕してくれる人に交通費を支給してほしい。

：教会は、いろんなグループが奉仕活動を行っており、例外的に認めない方がよい。

◇結婚式に関わる奉仕者（代表：森田さん）のメンバーを決めておくか否かについては賛否両論あり、式は主として日曜日に行われるため、準備に自主的に参加してくれる人も多く、現状支障はないので、特に結婚式に限定したメンバーは決めなくてもよいのではないかと。

◇留保金；2010年7月25日現在 141,602円

残高は、多く残さない方がよい。教会への寄付とか、街頭募金の際の寄付などに使用してはどうか、の意見もあり。

代表 山本栄



北九州地区、平和の集いの報告

今年も北九州地区の実行委員会が準備をして「北九州地区、平和の集い」が行われました。全体の参加者は約500名で、水巻教会からは28名の参加でした。

今年は「地区信徒協たより」でお知らせしていただきましたように、広島教区の平和の使徒推進本部からSr.山本をお招きしました。

被爆地である広島教区は平和活動に積極的に取り組んでいます。Sr.山本はその活動の中心となっている推進本部で働いています。今回は広島教区で取り組まれている平和活動について話をいただきました。

その後、各教会での活動紹介や、活動団体の紹介、子どもたちによる奉獻などもあり、平和を願って今年の集まりが終わりました。

この集まりに毎年、各教会は子どもたちをたくさん参加させています。これは次代を担う子どもたちに平和の大切さを教えるためです。

今年も150名くらいの子供たちが参加しました。来年は水巻教会からたくさんの子供たちが参加できればと願っています。

「今、モーセの十戒を読み直す」No.4

さいたま教区長 谷 大二司教

*抑圧の原因

- ①神々、ファラオの世界です。②抑圧のピラミッド・システムをきちっと作っていたこと。
- ③そして宗教の自由の否定、信教の自由の否定です。
- ④それから強制労働、使い捨て、追い使う者、下役、監督なんて者もいました。イスラエルの民の中から監督を選んで、奴隷に奴隷を支配させるといった構造も作っていた訳です。
- ⑤殺人、処刑、過労死、虐待、いのちの尊厳の否定、差別や管理といったものも行われました。
- ⑥それから男による女の支配。その中で性的搾取、女性の略奪、人身取引などが行われていた訳です。
- ⑦日常的な土地、家、家畜、生産物の収奪も当然行われていた訳です。
- ⑧貧しい者が守られない法律、神官による法廷。そこで賄賂や偽証がどんどん行われていました。
- ⑨国家権力の武力による略奪、所有権の否定。⑩そしてイスラエルの民自身の中にある奴隷根性。

こういったものがイスラエルの民を抑圧していたのです。今の時代と重なる部分がたくさんあると思います。

*民の解放に向けての神の計画

神様はイスラエルの民を解放するために、このエジプトという地から脱出するということと、モーセの十戒を与えるということの二つの方法で民を解放しようとしていました。

イスラエルの民はモーセに連れられ、長い旅を40年かけてエリコまで行きます。このシナイ半島はほとんどが砂漠です。そして砂漠の外れにあるのがエリコの町です。ナツメヤシがいっぱい生えている。乳と蜜の流れる土地に導くという。乳はヤギの乳でしようけれど、蜜はこのナツメヤシの蜜と言われています。具体的な目標を持ってイスラエルの民は歩んでいたということが分かります。これまでの出エジプトの背景の中でモーセの十戒について話したいと思います。

*モーセの十戒を読み解くポイント

モーセの十戒(出エジプト 20章)を読み解くためのポイントをきちっと抑えておく必要があります。

- ①モーセの十戒というのは決して個人に向けられたものではなく、イスラエルの民に向けられたもの、つまり共同体、あるいは国家という風に考えていいと思います。共同体に向けられた言葉だということを忘れてはいけません。
- ②それから創造主としての神ではなくて解放者としての神が語るということがもう一つのポイントとなります。
- ③三つ目のポイントは、苦しんでいる民の叫びを神様が聞いたということです。これは十戒のそれぞれのところに、きちっと書いてあります。

(次号へ続く)

公文書シリーズ 第10回 現代世界憲章

今号からは、およそ2回～3回をかけて、「現代世界憲章」を紹介してゆきます。

これは、このタイトルから分かるように、バチカン公会議そのものが「現代における教会の刷新」を意味しても、なお「現代的な」問題が存在し、それに対処することが必要、ということなのです。

それらはとかく、教会用語としては語られなかったが、現代社会には頻繁に使われるようになった概念です。すなわち「人格」、「人権」、「人間共同体」、「世界における人間活動」などです。一方で、もっと具体的な問題も存在します。平和の推進、政治、経済と社会、婚姻と家庭、文化などです。

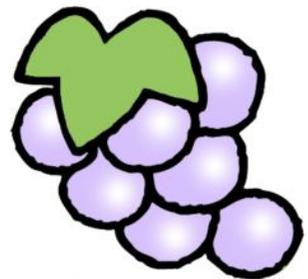
この憲章では、まず、前文において、次のことが語られます。現代においては、過度のぜいたくと変わらぬ貧困が同居している矛盾、一方で、民族どうしの紛争、社会秩序の大きな変化があり、これらへの対処を考えるべきだ、とされている。

前述の「人権」、「人格」については、人類が神に似せてつくられたのだから、人間＝神の像、という考え方にに基づき、人間の尊厳が導き出されるとしています。さらに、人間は肉体と霊魂から成り立っているが、人間は肉体的なものとして物質界の諸要素を自分の中に集約している。そのため、肉体の生活を軽蔑することは許されない。一方で、肉体は神によって作られ、最後の日に復活するものであるから、良いもの、栄光に値するものとして取り扱われなければならない、とあります。一方、神の知恵の光にあずかる人間は、自分の知性によって全物質界を超越している、とある。

「人間共同体」の章においては、旧来から存在する人々の相互関係が、技術文明の進歩によって、深い人格的交わりからほど遠い状況になる危惧が語られています。人間（ペルソナ）の本性上、必要なものです。社会性は人間に「追加」されたものではありません。交流、相互奉仕を通して、自分の才能をも伸ばすこともできます。

さらに、「すべての人は理性的な霊魂を恵まれ、神の像として作られ、同じ本性と同じ根源を持ち、キリストによってあがなわれ、神から同じ召命と目的を与えられている。したがって、すべての人が基本的に平等である」、と書かれています。

世界に対する人間の活動、現代世界における教会の任務、具体的な課題である平和の推進、政治などについては、次回以降に述べます。





★親睦レクリエーション大会★

日 時：9月23日(木)9:30~15:30

場 所：新田原グランド

地区内の信徒との交流のため、たくさんの方の参加をお待ちしています。

★敬老のお祝い会★

病者の秘蹟や食事会を計画しています。

日 時：9月12日(日)

ミサ中…病者の秘蹟

ミサ後…会食

※ 先月のからしだねでお知らせしていましたが、小教区委員会での話し合いの結果、今年から75歳以上の方が敬老会参加者の対象となっています。

★宮崎口蹄疫被災者献金★

教区全体 2,300,000 円

ご協力、ありがとうございました。

★第3回黙想の家で祈り語りあう集い★

日 時：10月10日(日)14:00~17:00

場 所：カトリック福岡黙想の家

講 師：染野治雄神父

テーマ：社会の中での私の生き方

参加費：300円(入館料)

※ 参加申し込みは9月末までに
お願いします。

詳しくは今月のからしだねに、はさんであるチラシをご覧ください。

小グループ紹介シリーズ

典 礼 委 員 会

委員のメンバーはミサの司会をする人、詩編を唱う人、侍者・冠婚葬祭関連の人に神父様です。教会の一年、待降節に始まり降誕節、四旬節、復活節そして年間主日のミサなどについて相談し準備します。結婚式や葬儀、北九州地区信徒協議会のイベントにも関わります。クリスマス、結婚式、葬儀のパンフレット作成も行います。

委員会は、原則として月1回開き、議事録は「からしだね」に載せていただいています。若い力を教会に結集するために、新人大歓迎です。典礼に関わるとミサについての関心が高まります。小教区内外の講座や集会に参加することで、信仰の視野を広げ、深めるチャンスがあります。「黙想の家で祈り、語り合う集い」は今年初めての試みで、10月10日が3回目になりますが、信徒の皆さんの反応はいかがでしょうか。典礼委員にご意見をお聞かせ下さい。